



12.9インチのタブレットを、ヘルムステーションに設置。出航前に、アプリ内の「計画作成」メニューでコースを設定し、危ない箇所がないかチェックする。タッチパネルで拡大・縮小が簡単にできて、使い勝手は抜群



出航して浦賀水道航路に近づくと、大型船が往来している(上)。さっそく「ニューパックスマート」でチェックすると、すぐに該当するフェスがわかった(下)。船名(TONG LIN WAN)というタンカーで、180度の方向に12.8ktで進んでいることが読み取れる



外国籍なのだろうか? AIS情報を発信しているヨットにも出合った。船名がすぐにわからなくとも、見え方と、全長やスピードから対象がわかる



画面ほぼ中央の赤い△マークが自艇で、矢印の向きが進行方向。ピンクの点線の航路内を走っている△(赤)が大型船で、それを曳いているタグボートが△(緑)の2艇だ。その前方の△(オレンジ)は、大型船の△(赤)よりも小さく、色分けされて表示される

私(=姉妹誌『ボート俱楽部』編集部モテギ)は、モバイル用アプリ「ニューパックスマート」を愛用している。お気に入りの点はいくつかあるが、全国の海岸線、海底地形図、漁具設置位置やマリーナ情報などがいつでも見られる上に、一緒にいる人に見せることで情報共有もできること。まさに、海に出た際に航跡も残しておけるというものが、私にとっての主な魅力だ。

そのニューパックスマートに、新たな機能が加わった。AIS(船舶自動識別装置)と、『Sガイド(プレジャーボート・小型船用港湾案内)』のデータ

タの表示が可能になったのだ。ということで、さっそく海上で使い勝手を体験するしかない。通航量の多い東京湾、横須賀市浦賀のシティマリーナベラシスから横浜ベイサイドマリーナへと、クルージングしながらの体験となつた。

ベラシスを出港すると、目の前の浦賀水道航路には、大型船が次から次へと北へ南へと航行している。さっそくニューパックスマートで確認すると、いろいろ。画面上の船舶は、大きさごとに色分けされているので、一見して非常に見やす

く、画面上でどのマークが実際に見えているフェ

なのか一致させやすい。

AIS船舶のマークをタップすると、そのフェスの情報が表示される。船名や全長、速度など、発信している情報の項目はフェスごとに異なるが、細かいところでは、船型や目的地までわかる。

続いて、AIS情報を発信しているヨットとそれ違った。フェスまでの距離があって、船体の艇名は目視できないが、AIS情報で見た全長と速度からヨットだと判断できる。ほかにも、横浜に着くまでにたくさんのAIS船舶を確認することができた。

最近は、法的に搭載が義務付けられている大

30日間
無料で使える!

AIS情報の表示が実現! 『Sガイド』データも追加! モバイル用アプリ「ニューパックスマート」を使ってみた

文=茂木春菜 写真=山岸重彦
text by Haruna Motegi, photos by Shigehiko Yamagishi

広がる
ニューパック
ファミリー

(一財)日本水路協会が発行する
航海用電子参考図「ニューパック」。
各種舶用機器のマップデータとして導入されるほか、
スマホ&タブレット向けアプリも登場し、
「ニューパックファミリー」として多くのユーザーに認知されている。
今回は、次々と新機能の搭載が進む「ニューパックスマート」を、
実際に海の上であれこれ使ってみることにした。

型船でなくても、AISの機器の搭載を考えているボートオーナーも多く、編集部に問い合わせをいただいたりもする。そうした方も、まずはスマホ(iOSに限る)さえあれば今すぐ使える、ニューパックスマートでお試しいただくのはどうだろう。タブレット(iPad)ならば、より画面が大きくて見やすいのでオススメだ。しかも、アプリの利用は初回登録から30日間は無料! まずはダウンロードして、とにかく実際に使ってみていただきたい。

さて、続いて『Sガイド』のほうだ。クルージングで明け暮れていた学生のころから、『Sガイド』が愛読書の一つだった私は(当時は「港湾案内」と呼んでいました)、今でも新しい港に入る際は、必ず確認することにしている。その情報を、手元のスマホのニューパックスマートで見ることができるようになったのだ。しかも、収載されている港の数は、なんと1,100を超えるという。

例えば、釣りで遠出した際などに、途中で給油が必要な場合のみならず、不慣れなゲストのために上陸をしたほうがいいようなときもある。当然、寄港地を前もって調べておくに越したことはないが、現場では、もっと近くに港がある場合もある。また、寄港先に連絡して入港許可を取つたところで、口頭での説明だけでは入港ルートがわかりにくいこともあるだろう。いずれの場合においても、『Sガイド』を参考すれば、一助となってくれるに違いない。



今回の体験では、ボートに装備していたGPSプロッターも起動してはいたが、慣れている海域といふこともあって、ニューパックスマートをメインに使った。ほかの航海機器同様、頼りきるのは間違っているが、事足りてしまうと感じたのも事実である。

NEWS ニューパックファミリー最新情報

ニューパックファミリーに、プレジャーボートの総合ブランド「ヤマハ」と、同社が提供するアメリカの代表的な航海機器ブランド「ガーミン(GARMIN)」が、新しい仲間として加わりました。高機能のGPSプロッター、マルチファンクションディスプレーなど、ニューパックを多角的に使える環境がさらに広がることは、ユーザーにとっては見逃せません。

なお、日本水路協会から本多電子へ提供されていた、ニューパックおよびホンデックス地図向けの詳細等深線のライセンス契約は、2018年8月をもって終了しました。すでにご購入の製品については、引き続き使用できます。

航海用電子参考図「new pec」

JHA(一財)日本水路協会
ニューパックファミリー



new pec
ファミリー

E-CHART KODEN JRC FUSOELE FURUNO マップル・オン YAMAHA